

〔成果情報名〕施設栽培ビワ「はるたより」と「長崎早生」の収益性の比較

〔要約〕施設栽培ビワ「はるたより」は 2L 以上の果実が 60%程度を占め、同じ栽培条件の「長崎早生」よりも 1 階級程度大きくなる。また、「長崎早生」よりも 10a 当たりの収量が多く、健全果率が高いため、収益性が高い。

〔キーワード〕はるたより、果実障害、ビワ

〔担当〕長崎県農林技術開発センター・果樹・茶研究部門・ビワ・落葉果樹研究室

〔連絡先〕（代表）0957-55-8740

〔区分〕果樹

〔分類〕普及

〔作成年度〕2024 年度

〔背景・ねらい〕

ビワの施設栽培の主要品種である「長崎早生」は、近年収穫期が高温となり、へそ青症、へそ黒症、しなび等の障害果の発生により生果率が低下している。ビワ「はるたより」は施設栽培向きの大果系品種であるが、「長崎早生」と比較した健全果率等の具体的なデータは少ない。そこで、同一ハウスで栽培した「長崎早生」と「はるたより」の収量等を比較し、その収益性の違いを明らかにする。

〔成果の内容・特徴〕

1. 「はるたより」の健全果率は 60%程度で、「長崎早生」の 40%程度に比較して高い。「長崎早生」に多い果実障害は、へそ青症、へそ黒症、しなび果であり、「はるたより」にはほとんど発生しない。一方「はるたより」には果頂部からの蜜の滲出の発生が多い（表 1）。
2. 「はるたより」の収穫果実の階級は「長崎早生」に比較して 1 階級程度大きい。また、2 L 以上の比率は「長崎早生」の 10%以下に対して 60%程度を占める（図 1）。
3. 「はるたより」と「長崎早生」の収量および階級比率と 2024 年の販売単価をもとに試算すると、生産経費と販売経費を差し引いた農業所得は、「はるたより」1,499 千円に対して「長崎早生」は 934 千円となり、「はるたより」は収益性が高い（表 2）。

〔成果の活用面・留意点〕

1. ビワ施設栽培において、老木化により収量が低下した「長崎早生」の改植の際に参考となる。
2. 施設栽培「はるたより」16 年生と「長崎早生」23 年生（2021 年産試験）を用い、収穫した全果実について集計した。
3. 障害果については、4 月の同一日に収穫した果実、2021 年産は 150 果を、2022 年と 2023 年産は 200 果を供試して果皮障害を調査した。
4. 2024 年産ハウスビワの販売実績（2 L：2,427 円/kg、L：2,265 円/kg、M：1,864 円/kg、S：1,060 円/kg）を参考に、2 L 以上は 2,400 円/kg、L は 2,300 円/kg、M は 1,900 円/kg、S は 1,000 円/kg の単価で販売額を試算した。
5. 果実障害の蜜の滲出は、湿らせた布で軽くふき取ることにより生果として出荷できる。

[具体的データ]

表1 「はるたより」と「長崎早生」の障害果の発生状況

年産	品種名	健全果率(%)	障害果発生率(%)							
			へそ青	へそ黒	しなび	たてぼや	そばかす	裂果	紫斑症	蜜の滲出
2021	はるたより	53.3	0.7	0.0	3.3	1.3	—	2.0	1.3	40.0
	長崎早生	42.0	8.0	20.7	37.3	1.3	—	0.0	0.0	8.0
2022	はるたより	62.7	1.4	0.0	0.5	1.9	2.4	4.3	0.5	25.4
	長崎早生	33.0	26.2	17.5	12.6	0.5	1.5	1.9	0.0	3.4
2023	はるたより	63.5	0.0	0.0	0.0	2.0	4.0	4.0	0.0	29.0
	長崎早生	38.5	35.0	17.5	12.0	0.5	2.0	1.0	0.0	3.5

※2021年は4月12日、2022年は4月22日、2023年は4月13日に調査

※果率は全果実について調査

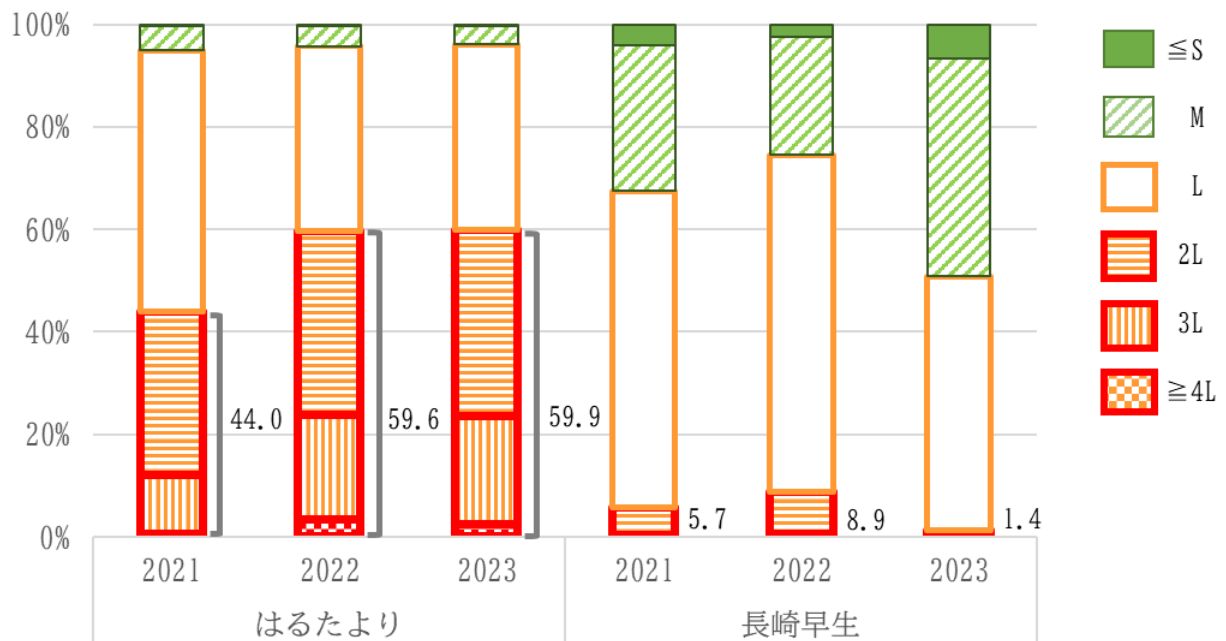


図1 「はるたより」と「長崎早生」の階級割合

表2 「はるたより」と「長崎早生」の10a当たり農業所得の試算（2023年産）

品種名	収量(kg)	階級比率(%)				販売金額(千円)	経営費(千円)	農業所得(千円)
		≥2L	L	M	S≤			
はるたより	1,702	60.0	36.0	3.5	0.4	3,583	2,084	1,499
長崎早生	1,600	1.4	49.4	42.5	6.7	2,780	1,846	934

※経営費の試算には「長崎県農林業基準技術（令和6年2月）」を用いた

[その他]

研究課題名：「なつたより」等良食味ビワの省力栽培法の開発

予算区分：県単（経常研究）

研究期間：2018～2022年度

研究担当者：富永由紀子、古賀敬一